

# 高齢化社会が人間の心に与える影響

河原畑佑基

(川畑 隆ゼミ)

本テーマを選択したのは、筆者自身が4月から高齢者福祉施設の介護職員として働くので、少しでも高齢者について知っておきたかったからである。筆者は就職活動で複数の福祉施設を訪れる機会があり、高齢者と接することが多かった。そこで、2025年(平成37年)には高齢者人口がピークになり人口の約3分の1が65歳以上の高齢者になると言われている高齢化社会にはどのような問題があり、そのことが人間の心にどのような影響を与えるのか、それはどうしてかについて考えることにした。

日本の総人口は2011年(平成23年)の時点で1億2,780万人、そのうち65歳以上の高齢者人口は過去最高の2,975万人(前年2,925万人)であり、その総人口に占める割合(高齢化率)は23.3%(前年23.0%)となった。今後、高齢者が増え続け、2025年(平成37年)のピークでは3,500万人、総人口の35.3%になると予想されている。それに対して、総人口は2026年(平成38年)には1億2,000万人を下回った後も減少を続け、2048年(平成60年)には1億人を割り9,913万人、2060年(平成72年)には8,674万人になるらしい。

表題にもかかわらず、とくに以下の「若者に与える影響」で取り上げたのは高齢化社会における社会経済的問題が主で、その下で暮らす若者の心理学的問題については掘り下げることができていない。力不足のためだが、お断りしておく。

## 高齢者の心に与える影響

**1. 孤独死への不安** 2011年に孤独死した高齢者の数は、1万5,000人超だと言われている(ニッセイ, 2011年)。近年、注目されている孤独死は高齢者に起こりやすいが、夫婦で生活している分にはその心配はない。配偶者が亡くなったあと、一人暮らしになってしまった場合に現実味を帯びてくる。最近の高齢者は、子どもから一緒に暮ら

そうと言われても迷惑がかかるからと、一人暮らしを続けることが少なくないようだ。そして、誤って階段から転がり落ちて頭を打ったときでも、地域の人たちとの親交がなかった場合は助けにきてもらえず、時間が経って亡くなってしまいうような事例も珍しくない。孤独死は、そういう条件がそろったときに起こりうるのだ。

**2. 単独世帯の増加** 図1は全世帯数に占める世帯種類別構成比推移である(国民生活基礎調査, 2008)。

核家族世帯が多いが、昔に比べれば若干増えている程度である。それに対して、近年、大幅に減少しているのが三世代世帯である。三世代世帯は減っているのに核家族はあまり増えていないのだが、その秘密は単独世帯の増加にある。つまり、高齢者は三世代ではなく、単独で住んでいる方ははるかに多くなっているのである。

全日本民医連による「一人暮らしの高齢者インタビュー」(2011)には、「『幼いころに父親と死別。他家の養子になり、実母は再婚』、『農家に生まれ、都会に稼ぎに出てまもなく両親が死去。弟たちを育てた』など、“家族との死別”や“幼少期からの貧困”を経験していたり、『配偶者の借金や暴力から逃げたので、親族との連絡も絶っている』、『一度嫁いだが離婚。同居していた姉が死去』など、結婚が破綻し今に至っていたケースがありました。また、『一流企業勤めで結婚もしていたが、ケガで障害を負い、職も家族も失った』、『大型工場の技能者で海外の現場にもかり出されていたが、五〇代で仕事がなくなった。転職直後に病気で働けなくなった』など、社会で活躍していたが、病気や障害をきっかけに仕事や家族を失った人もいました。」とある。これらは高齢者が一人暮らしをしている理由のごく一部だが、いずれも致し方なく結果的に単独世帯になっている。それとは

## 全世帯数に占める世帯種類別構成比推移 (1968年～2008年)

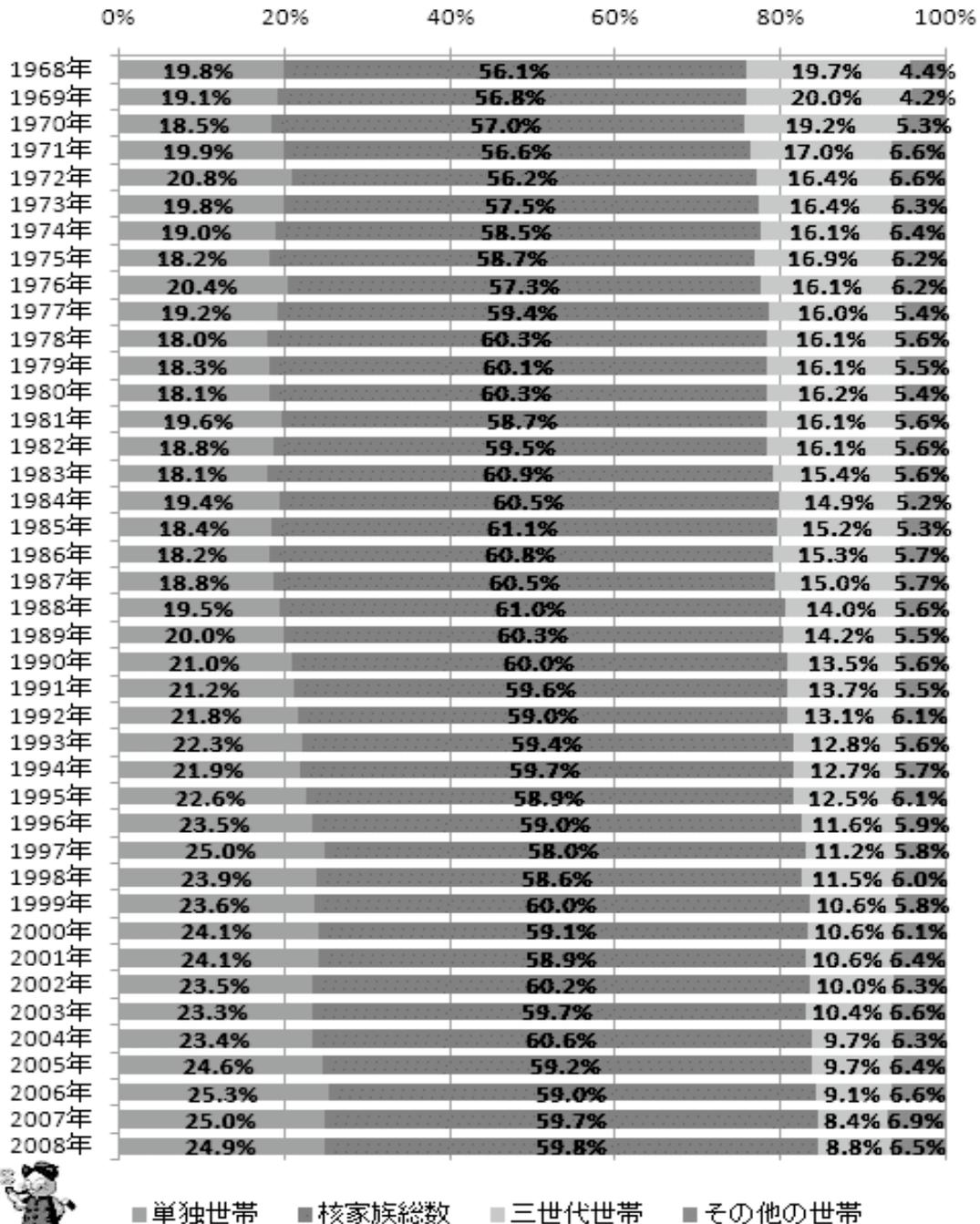


図1 全世帯数に占める世帯種類別構成比推移（国民生活基礎調査）（2008）

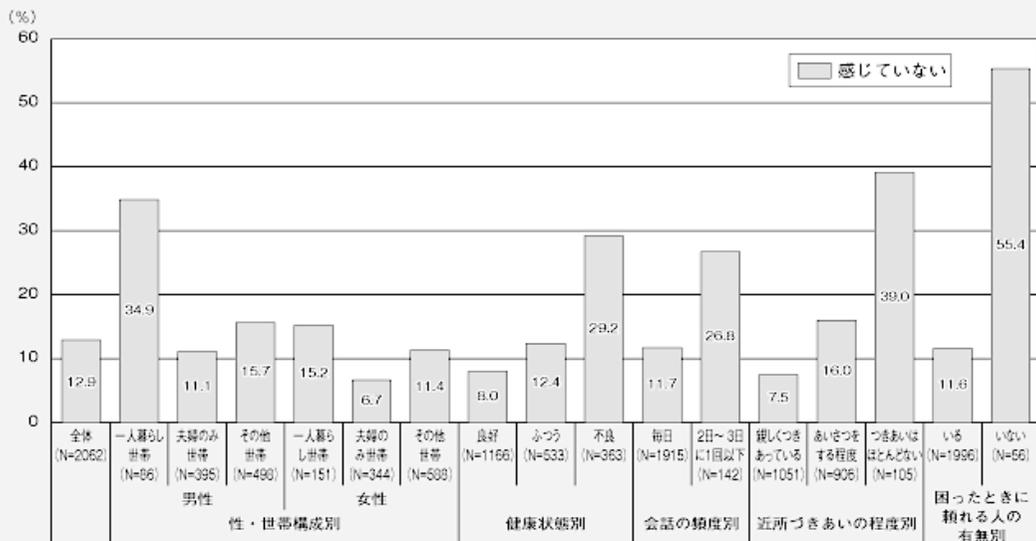
対照的に、自身の意志で一人暮らしをしている高齢者もいる。「高齢者へのテレビアナウンサーのインタビュー」(2007)には、「テレビのアナウンサーが、『高齢者がほとんど』という団地を対象にインタビューしている映像が放送されており、『一人で寂しくないですか、不安ではないですか』とインタビューしていく。高齢者の回答は、『寂しいと言われれば寂しいが、今の生活に満足しているし、特に不安もない。病気で長患いするより、ぼっくりと死んだ方がいいですよ』、『今は身体も動くので、贅沢はできないけどそれなりに生活できる。人様にいつかだけ迷惑をかけるが、朝になったら死んでいた、という状況の方が、私にはいいよ』、概ねこんな回答が多かった。」とある。この二つのインタビューの報告から、結果的に単独世帯にはなっている、そこに至る経過や意思はさまざまであるということがわかる。高齢者の単独世帯で起きる孤独死を、テレビやその他のメディアは一律に悲劇だと伝えているように感じられるが、その高齢者自身の心の中はさまざまであろうと思われる。

3. 生きがいと不安 年間の孤独死者数は1万5,000人を超えているが、最近では若者にも起きているため、そのすべてが高齢者ではない。しかし、高齢者の孤独死は多い。高齢者が一人暮らしをしていると外出が減り、自宅でボツンとしていることが増える。足腰が弱る、疲れやすい、病気や怪我で寝たきりになってしまう。こういった中で、どんどんと老いていく自分を愛せなくなり喪失感が募っていく。このような「不安」を抱えて生きがいをなくし、うつ病になることも少くない。

図2は、高齢者の生きがいを感じていない人の割合の推移である(内閣府, 2010)。

これを見ると、一人暮らしをしている、会話をしない、近所付き合いがない、困った時に頼れる人がいないといった、社会的に孤立した状況が続くことによって、高齢者の生きがいが低下していることがわかる。第一生命保険の小谷みどり(2012)は、「人とのつきあいもお金もない状況で高齢期を迎えても、本人が現在の生活に満足していれば、当然ながら問題は何もない。しかし、一人暮らし高齢者の過半数が孤独死の可能性を自覚

図1-3-3-1 生きがいを感じていない人の割合



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」(平成22年)  
(注)調査対象は、全国60歳以上の男女

図2. 高齢者の生きがいを感じていない人の割合 (高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査) (2010)

## 高齢化社会が人間の心に与える影響

しているうえ、『誰にも看取られない最期は悲しい』という意識や、孤独になることへの不安は高齢者のなかに根強くあることが明らかになった。元気なうちは自立できても、介護や看護が必要になった時はおろか、日常のちょっとしたことで、話し相手になってくれる人、助けてくれる人や心の支えになってくれる人がいないことは、高齢者にとって大きな不安につながる。核家族化、少子化が進むなか、家族がいても、配偶者に先立たれる不安を抱えている人が多いのは、このことと無関係ではないだろう。長寿化で、子どもに先立たれるケースも珍しくない。転勤などで地域間流動が多く、深い地縁を築けないまま定年退職する人たちも、今後ますます増える。」と、説明している。

また、「NPOと行政の協議の場づくり事業」分科会B(2011)の中の「孤独死防止に向けて」では、「孤独死につながる要因として、地域コミュニティとのつながりの希薄化があげられる。高齢者の実態調査においても、近所でお互いに訪問をしあう、友人と度々連絡を取り合うといった関係を持たない高齢者は少なくない。これらは、近代化・都市化の中で、個人の自由とプライバシーを尊重し、他人に干渉しないことがよいこととされてきた結果が招いている状況でもある。従って結果的に『孤独死』に陥る人のみならず、高齢者をとりまく社会のあり方全般を考える必要がある。」としている。

生きがいを感じていない人は、感じている人に比べて、さまざまな不安を抱えていることだろう。また、不安が少なければ生きがいも増してくるのだと思う。一人暮らしをしていることへの不安、近所や親族などとのつきあいが乏しい場合は、もし何かあった場合でも助けてくれる人がいないという不安、また、孤独死する心配のない夫婦でも、いつか配偶者が亡くなってしまおうという不安を抱えながら日々生活していることだろう。

**4. まとめと対策** 単独世帯の高齢者が1968年～2008年で約5%増えている。逆に三世帯世帯は1968年～2008年にかけて約10%減っている。昔の高齢者が明確には抱かなかつたであろう不安(心配)を今の、とくに単独世帯の高齢者は感じながら生活している。そのような不安、孤独感を

含んで今の高齢化社会はある。そしてそれらは今後も確実に進行していく。

高齢化社会の一つの表れである孤独死を防ぐことにつながる、高齢者の不安や生きがいの喪失への対策としては、核家族化ではなく三世帯家族化の方向を目指すことが一番であるように思える。しかし、すでに述べたように、息子や娘が三世帯世帯を提案してきても、高齢者自身が迷惑をかけるからといって単独世帯になっていることが多い。単独世帯になること自体が問題ではないが、高齢者の社会的との交流が保障されることが重要である。「現実にある出来事『孤立死』(2012)では、「孤立死(孤独死…筆者注)そのものを防ぐことではなく、孤立死に至る経過を防ぐことが大事だと私は思う。そのためには、行政による支援だけでは絶対に無理があるので、たとえば、巡回や、話し合うことで心のケアをしたり、お年寄りの方が集まることのできる場所を提供するなど、横のつながりを強化し、地域ぐるみでよりよいコミュニティ、もしくは新たなコミュニティを形成することだ。」と述べている。このように、高齢者の交流できる場を作ったり、積極的に会話をもちかけていったりの個々のできることを実践していく必要がある。また、個々を超えた対策の可能性として、「NHK時論口論」(2012)ではこう述べている。「電気やガス料金の滞納など、困窮が疑われる場合は、事業者が自治体に情報を提供するなど、連携を強めるよう求める通知すること」。しかし、このような仕組みを作っても、そこからこぼれ落ちる独居世帯があることだろう。上に述べたような三世帯家族化への努力、また、単独世帯には社会的関係を閉ざさせないこと、親族から積極的に連絡をとることなどが重要である。

## 若者の心に与える影響

**1. 不安** 現在の日本の国債発行額は、財務省(2009)によると2009年12月の時点で871兆5,104億円にのぼるといふ。国の税金や高齢者に支給されている年金は若者が働いた分の給料からもまかなわれているため、高齢化によって養うべき高齢者が増え、また少子化による若者の減少とも相俟って、若者の負担が大きくなる。NHK(2012)

は、若者に「2030年に向けて不安なことは何か」を問うインタビューを行なったが、その中に「高齢化社会が進んで介護する人の負担が多くなりそうで不安」、「自分たちが年をとった時、年金はもらえないだろうし、税金などの負担ばかりが増え、見返りが求められないと思う」、「社会保障や年金問題など早急に改善されるとは思えず、年齢があがるとともに雇用の不安もある」などの意見があった。若者も、高齢化社会によってもたらされる介護、年金、税金、雇用問題など、将来に向けてさまざまな不安を抱えながら生きていると言えよう。

**2. 年金問題** 厚生年金の掛け金の納入は会社が半分肩代わりしてくれるが、国民年金は全額自分で納入しなければならない。納入は20歳から(学生を除く)だが最近では未納者が増えており、これはフリーターが増えていることが一因である。フリーターは収入が正社員などに比べるとどうしても低くなってしまうため、お金の余裕がなく掛け金を納入しない、もしくは納入できない。また、年金の未来が見えないため、納入できるが意図的に納入しない若者もいるようだ。年金についてさまざまな問題が起きたことは記憶に新しい。中でも若者に一番関係のあることとして取りざたされたのは、年金制度が将来的に破綻するのではないかということである。高齢者が増えていくことで、当然、年金に費やされる国の支出は増える。年金とは、現役の世代が支払ったものが高齢化して定年を迎えた世代に向けて支払われるという相互扶助の制度であるが、すでに述べたように、若年層が減少し高齢化が激しい現代では成立するのが厳しくなってくる。また、医療技術が現在も進歩しており日本人の平均寿命は年々増え、年金にかかるお金も増える。

実は、「年金は破綻する」という意見と、「年金は破綻しない」というまったく逆の意見とがあるらしい。前者の意見が圧倒的に多いのだが、それは年金の積立金が〇〇年には底をつくという予測に基づくものである。しかし、後者の意見も少数だがある。日本経済新聞の山崎俊輔(2012)は、「20代から30代の若い世代にとって、『年金』といえば不公平の象徴であり、不信感の塊のような

ものかもしれません。内閣府『子ども・若者白書(2012年版)』によれば、若者に対する働くことの不安のうち、老後の年金に関する不安は81.5%と高い割合を示しています。(中略)私は『年金破綻しない論者』です。理由は簡単です。国の財政にとって年金制度を破綻させることは得ではないからです。今年では生活保護の不正受給が大きな問題となりました。生活保護は全額税財源でまかなわれます。これに対して年金制度は保険料と税金で運営されています。もし、年金制度を破綻させると、国は財産のないお年寄りについては生活保護を支給しなければなりません。生活保護は憲法で生存権が保障されている以上、支払わなければならない責任があるからです」と述べている。しかし、年金に対する若者の不安は80%と高い。根本的な問題である高齢化社会は間違いなく到来するため、年金に対する若者の不安は改善することはないだろう。

**3. 税金問題** 若者が社会の変化を一番身近に感じることができるのは税金問題ではないだろうか。たとえば、消費税増税である。増税によって国民が支払う額は少しではあるが増えることになる。しかし、国は現在の5%という消費税率では国がもたないと判断している。増税のメリットとデメリットについて、消費税まとめサイト(2010)は以下の点を上げている。すなわち、メリットについては、税収の方法が簡便的で広く短時間で財源を確保できることであり、他の税金を上げるよりは消費税を上げる方がよい。反対にデメリットは生活が苦しくなることであり、消費税率は誰に対しても同じ率でかかるので、一見、公平のように思われるが、低所得者や年金で生活をしている人の消費税の負担率が、所得の多い人に比べて大きくなる。これは、「消費税の性質と消費税増税の論点・問題」(2011)によると、「消費税は税の負担者である消費者の『所得水準・生活状況』をまったく考慮せずに、5%なら5%、10%なら10%と一律的に消費行動に対して課税をする税制なので、低所得者やエンゲル係数の高い家計ほど『実際の負担率・主観的な負担感』は大きくなりやすいためである。」という。また、増税直後には税収が落ち込むと予想され、消費税が増えて

## 高齢化社会が人間の心に与える影響

もその分給与が増えるわけではないので国民の購買意欲が下がり、景気が後退する。このように税金問題は自分たちの生活に直接かかわってくるので、不安に思う若者は多い。

今回の衆議院選挙で大敗を喫した民主党は、元々、マニフェストの中に増税はしないという公約を書いて政権を取ったが、消費税増税を決めたことによって、公約違反だとの批判が多く寄せられた。その批判には若者によるものも多い。東京新聞(2012)によると、農業の農業根本拓也さん(20)は、「増税で僕らの将来の不安を解消すると言っても、信用できないですね。民主党は、マニフェストで約束しながら、やらないことばかりだった」、中学校女性教員(27)も、「増税で本当に私たちの将来を守ってくれるのか。誰が増税分のお金をきちんと使ってくれるか、しっかり調べて投票したい」と述べている。このように増税に不安を感じている若者は少なくない。消費者は若者の方が確実に多く、高齢者はお金をあまり使わない。消費税率を上げて高齢者がお金を消費できるようにならなければ、税収は上がらない。高齢者がお金を消費するような政策とはどのようなものだろうか。

また、増税を回避するための支出の抑制も重要である。わが国の国会議員定数は諸外国に比べても多いとはいえないにもかかわらず、その削減が言われている理由の一つは、議員の給料が高すぎることにあろう。たしかに他の国と比べると日本は高い。NAVERまとめ(2011)によると、議員一人あたりの年収(歳費)は、日本約2200万円、アメリカ約1570万円、イギリス約970万円、ドイツ約1130万円、カナダ約1260万円、韓国約800万円である。日本の議員は給料(歳費)を別にして、必要経費も外国に比べて多い。イギリスが歳費を抜いて約2200万円であり、日本は歳費を抜いて約4600万円でありイギリスと比べて約2倍である。それにしても多い。この議員にかかわる事柄を含めて、支出の抑制を具体的に実行するべきだろう。

**4. 介護問題** 高齢化社会に介護はつきものだが、すでに紹介したインタビューへの回答にあったように、不安を抱えている若者がいる。介護と

一口に言っても、家庭介護と職業的介護に分けられると思うが、ここでは職業的介護について考える。

介護施設で働く職員数については、必要数に比してギリギリとも足りていないとも言われるが、若者は介護からどんどん離れて行っていると言えよう。日本経済新聞(2008)によると、「介護保険制度が始まった2000年当時は、将来性のある職場として注目を集めたが、最近は養成学校に学生が集まらない。施設でも人材確保に苦労している。仕事の割に低い給与やキャリアプランが描けないことが原因といわれ」、また、「102, 91, 63, 48, 29。これは2004年から08年に滋賀文化短期大学の介護福祉専攻に入学した学生の人数だ。1994年に滋賀県初の介護コースを持つ短大としてオープンし、97年から05年までは80人の定員を上回る学生を集めてきた。ところが06年から状況が一変、今年の入学生はついに30人を割った。これは全国的な傾向で、この数年定員割れの学校が相次いでいる。都市部ですら定員40-50人のところに一ケタの学生しか集まらない学校もあると言われており、介護職員を志す若者はどんどん減っていつている」らしい。さらに記事は続く。「介護職から離れている主な理由は、給料が低い、給料が低い割には仕事がつきつことなどであり、また排泄物の処理など汚い仕事が敬遠されているようだ。全国130カ所が高齢者向けホームなどを展開するベネッセスタイルケアの小林仁社長も、『新聞の折込み広告で社員を募集しても100回のうち40数回は全く応募がない。他社では施設をつくっても人が集まらず、オープンできない例も聞こえてくる』という。そんな中で、若者に魅力的な職場をつくろうとの努力も始まっている。『02年から新卒の定期採用を始め、今春は12人採用した。学部不問。芸術系の大学や海洋学部卒の新人もいる。入社してからきめ細な研修と面談を実施。人事制度も整え昇進の道も用意している』という『ひのでホーム』などを運営する社会福祉法人芳洋会(東京都日の出町)もその一つだ。採用に関しては厳しい現状だが、関係者は口をそろえて『(介護は)人と人が濃密にかかわれるやりがいのある仕事でもある』という。福祉実習現場では、『実習ではお年寄りの排せつ介助

もするが、感謝の言葉に学生は目を輝かせて帰っていく』という話もよく聞く。『彼らが夢を持つ職場は、介護を受ける人にとっても心地いいはずだ』と話す関係者もいる」とのことだ。筆者も障害者施設でアルバイトをした経験があるので、この意見には大きく同意する。ふだんの生活の中で「ありがとう」の一言をいただくことは意外と少なく、自身がした仕事を認めて感謝してもらえればとてもやりがいを感じるようになる。

介護に関しては暗い話題が多いが、高齢化社会において介護は必要不可欠な労働である。低賃金や仕事の辛さなどの若者の不安を上回る充実感を持つような職場にすることが必要だし、実際の介護体験によって不安を少しでも払拭することによって、学生の目は介護現場に向くようになるのではないだろうか。

5. まとめ 高齢化社会に横たわり若者に影響を与える問題として、年金、税金、介護を取り上げたが、そこには若者の不安がまわりつく。年金については、医療の進歩や少子化等に伴う高齢者人口の比率の増加を食い止められなければ、破綻も考えられる。増税を避けるためには経済の活性化とともに、支出額の削減が必要である。介護に関しては、仕事の辛さは変わらないにしても実習などによってやりがいを体験すること、低賃金の改善などが必要だと思われる。

## おわりに

筆者は、高齢者施設でのインターンシップで、ある高齢者に「希望」について尋ねたことがある。答は、「どうせそんなに長くは生きられんから、はよ死にたいわ」であった。そこから、希望、生きがいというものを感じ取ることはできなかった。その高齢者にとっての生きがいをどのように作り支えていくのか、卒業後、高齢者施設で介護業務に就く筆者は、そのことを常に考えながら働き続けたいと思う。

高齢者も若者も、高齢化社会に対して不安を抱いている。高齢者の不安については、誰にも看取られずいつの間にか死んでいるかもしれないことを中心に取り上げた。それに対して若者の不安については、年金、税金、介護問題などの政治経済

的なものをその元にあるものとして取り上げた。どちらの不安も解消の余地はなくはなかりう。不安を取り除こうとすることが生きがいにつながるという意味で、社会の安定や発展を担う国民全体が生きがいをもって高齢化社会のさまざまな課題に取り組むべきだろうが、とりわけ若者自身、そういう気概を持ちたいと思う。

## 引用・参考文献

- 内閣府 (2010) 高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査 <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/html/s1-3-3-01.html>
- 第一生命保険 小谷みどり (2012) 一人で暮らす高齢者の不安—孤独の不安— <http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/note/notes1201a.pdf>
- 「NPOと行政の協議の場づくり事業」分科会 B (2011) 孤独死防止に向けて <http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000015/15824/b-kodokusibousi.pdf>
- 現実にある出来事「孤立死」(2012)「孤立死を防ぐには」 <http://www.at-at.jp/kodoku/index.html>
- NHK 時論口論 (2012)「相次ぐ孤立死どう防ぐ」 <http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/114532.html>
- 平成 20 年国民生活基礎調査 (2008) 全世帯数に占める世帯種類別構成比推移 <http://www.garbagenews.net/archives/1344618.html>
- 全日本民医連 (2011) 一人暮らし高齢者インタビュー <http://www.min-iren.gr.jp/syuppan/shinbun/2011/1491/1491-01.html>
- とある男の日記 (2007) 高齢化社会と「高齢者の一人暮らし」 <http://dhatenane.jp/Syuu-chan/20070507>
- プロジェクト 2030 (2012) 若者アンケート [http://www.nhk.or.jp/shutoken/2030/result/index.html#q5\\_4](http://www.nhk.or.jp/shutoken/2030/result/index.html#q5_4)
- 日経新聞 (2012) 国の年金はそう簡単に破綻しない [http://www.nikkei.com/money/features/18.aspx?g=DGXNMSFK02024\\_02112012000000](http://www.nikkei.com/money/features/18.aspx?g=DGXNMSFK02024_02112012000000)
- 消費税まとめサイト (2010) <http://consumption-tax.minnanouwasa.com/disadv.htm>
- 消費税の性質と消費税増税の論点・問題 (2011)

## 高齢化社会が人間の心に与える影響

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~mind/vision/es002/consumption001.html>

東京新聞（2012）消費税増税成立 若者「政府信用できない」 <http://blogs.yahoo.co.jp/ttammakko/29956628.html>

全労連（2011）日本の国会議員は多すぎる？  
<http://www.zenroren.gr.jp/jp/hirei-teisu/index.html>

NEVER まとめ（2011）国会議員の給料を各国で比較 <http://matome.naver.jp/odai/2131739964131468401>

日本経済新聞（2008）若者が介護離れ [http://candypop-corp.com/images/200807\\_care.pdf](http://candypop-corp.com/images/200807_care.pdf)